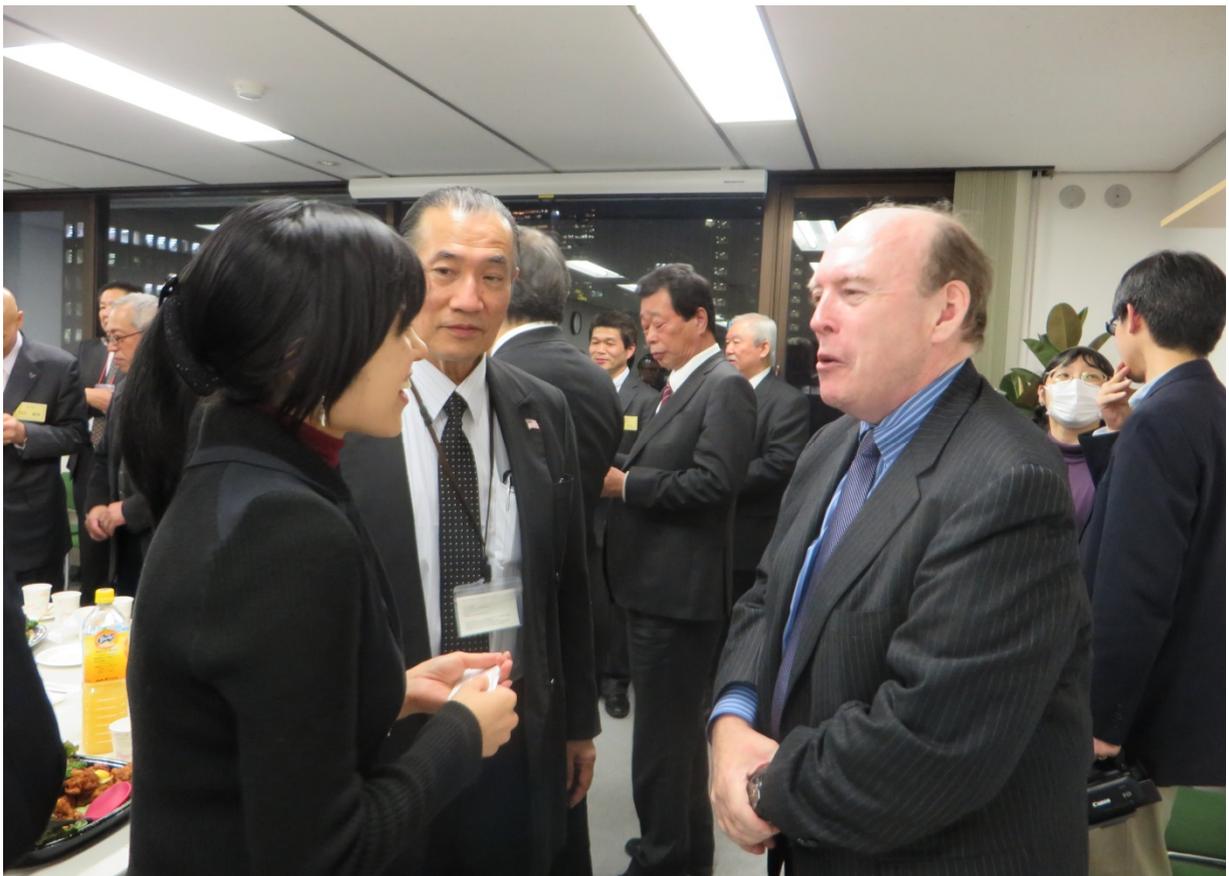




Noguchi Times

NOGUCHI INTERNATIONAL BUSINESS CONFERENCE NEWS Vol. 2 2014.05.27



CONTENTS

■ご挨拶	p2
■第12回NIBC開催内容報告	p3
■医学交流活動 - 第二・第三の野口英世を育てるために -	p4
■賛助会員のご紹介	p6
■野口記念インターナショナル画像診断クリニックのご案内	p6
■野口医学研究所からのお知らせ	p7

ご挨拶

協力し合う事、それが日本の強さだった

会長と共に参与会を盛り上げていかなければならない立場になり責任を感じております。ビジネス交流会を軸に出会いの場を広げ「野口」を知ってもらう事も大事ですが、出会った方々が互いにメリットのある展開をしていてもらいたいとも思っています。

医学の世界だけでなく、物づくりの世界でも完璧はありません。誰かが考え世の中に生み出しますが、間違いはあります。間違いを“正すもの”として捉えれば周りの力を借りながら改善されていきます。逆に間違いを“間違い”としてだけ捉えると、そのものは否定されこの世から抹殺されます。抹殺されないように隠蔽にもつながります。誰かが気づいたら誰かが正し成長させていくことは、本来日本の強さだったのではないのでしょうか。思いやりで代表されるように日本人は気づくことが得意なのですから……。



得意なことを主眼に世の中を見ればサポートできることはいっぱいあります。逆に、得意なことを見ていただければ気がついていなかったことを指摘していただくこともあるでしょう。人と人の出会いの先にこんな事があったら互いの成長につながりますね。

さて、病気になれば医者任せの時代は終わりました。病気にならないよう日ごろから予防することが大事なのです。私は「野口」との出会いで常日頃の生活習慣を大きく見直しました。病気の時に会える医者と、健康な時にお会いするお医者様はどこか違う気がします。病気だと治すことだけに集中されているかもしれませんが、医者と患者という立場が邪魔をして本音のアドバイスがでないのかもしれませんが。「野口」をきっかけに生活の見直しができるそんな「出会い」があるといいですね。

米国財団法人野口医学研究所
参与会副会長 川西 密雄



第12回NIBC開催内容報告

(NIBC : Noguchi International Business Conference)

【日程】2014年3月24日(月)

【開催場所】野口医学研究所 9階会議室

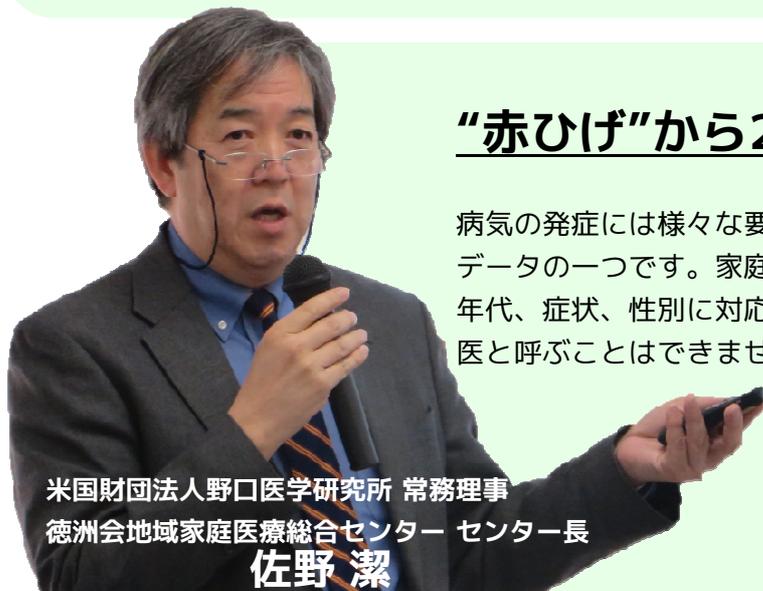
安心の顧問医サービス

「定期的に検査を受けていれば安心」と考えている方は多いのではないのでしょうか。健康維持で大切なのは「賢い健康管理」をすることです。「賢い健康管理」では、どのような医師・スタッフが対応してくれるのか、相談しやすい環境であるのか、アフターフォローはどのようになっているのか、他の医療機関との連携はどうか、等を考慮し、自分に適した施設を選択することが重要です。

宇都宮セントラルクリニックでは、皆さんの健康管理を1カ所で継続的に記録・管理して、適切な医療相談を行う「顧問医サービス」を提供しています。皆さんには安心して健康管理を受けられる「施設」「医師(顧問医)」を確りと見極めて頂くことを是非お勧めします。



宇都宮セントラルクリニック マネージャー
高田 健一



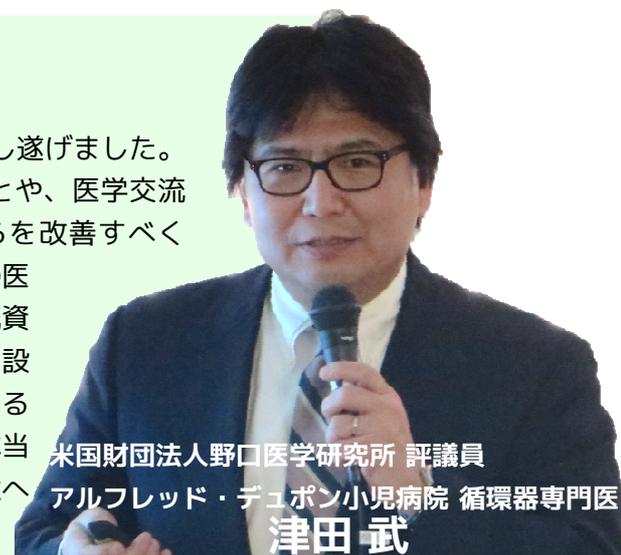
米国財団法人野口医学研究所 常務理事
徳洲会地域家庭医療総合センター センター長
佐野 潔

“赤ひげ”から21世紀の家庭医へ

病気の発症には様々な要因が関わっています。家庭環境や遺伝性も非常に重要なデータの一つです。家庭医には「一家に一人のかかりつけ」医として、あらゆる年代、症状、性別に対応していける能力が必要であり、これができなければ家庭医と呼ぶことはできません。我々は「病気を診るのではなく、人を診る」のが仕事です。大切なのは、皆さん自身が「どのような医療を求めるか」を明確にすることです。国民が求める医療にきちんと対応していくことが我々家庭医の使命であると考えています。

野口医学研究所の歩みとその未来

1980年代、日本は目覚ましい経済の発展により「経済大国化」を成し遂げました。しかしながら、日米臨床医学交流が消滅していく危機感があったことや、医学交流による日本のIdentityの追求が課題とされていたことから、これらを改善すべく「野口」は設立されました。これまで「野口」は①医学留学支援、②医学教育・啓発活動、③医療ビジネスとのコラボレートによる医学交流資金の確保、④互助組織「野口アラムナイ」の形成、⑤臨床研修病院の設立等を行ってまいりましたが、これに留まることなく新たな試みを実施する時期に差し掛かっていると感じています。今後「野口」は、国民が本当に求める医療に対応すべく、一般市民への啓発活動や、報道機関各社へのアプローチ、学会との連携等に力を注いでいきます。



米国財団法人野口医学研究所 評議員
アルフレッド・デュボン小児病院 循環器専門医
津田 武

医学交流活動

- 第二・第三の野口英世を育てるために -

一般社団法人野口医学研究所「社団野口」の収益金の一部は、米国財団法人野口医学研究所「財団野口」を通じて、国際医学交流に使われています。「財団野口」が設立から現在に至るまでに送り出した医療従事者（留学生）は優に700名を超えています。

今年も3月に、医学生を対象としたCSP（Clinical Skills Program）研修が実施されました。トーマスジェファソン大学に於けるCSP研修の内容と、研修に参加した医学生達の声をご紹介します。

研修スケジュール

2014年3月21日（金）～3月28日（金）

※このうち土日を除く6日間が研修。

1 日 目	Orientation Tour of Campus Tour of Library Tour of Simulation Center Tour of America's first hospital, Pennsylvania Hospital	4 日 目	Group A: Emergency Medicine Group B: Internal Medicine Inpatient Rounds Internal Medicine Noon Conference Clinical Skills with a Master Clinician JeffHOPE at "ACTS" shelter
2 日 目	Group A: Internal Medicine Inpatient Rounds Group B: Emergency Medicine Internal Medicine Noon Conference Group A: Emergency Medicine Group B: Internal Medicine Afternoon Rounds Welcome Dinner	5 日 目	Group A: Outpatient Family Medicine Group B: Pediatrics Morning Report Shadowing at Nursery, Inpatient or Outpatient Master Clinician Rounds JeffHOPE at "Our Brothers Place (OBP)"
3 日 目	Group A: Internal Medicine Inpatient Rounds Group B: Emergency Medicine Introduction to Simulation Models JeffHOPE at "Sunday Breakfast" rescue mission	6 日 目	Group A: Outpatient Pediatrics Group B: Outpatient Family Medicine Closing Ceremony Farewell Dinner

研修生のレポートより

- トーマスジェファソン大学には、無保険状態の人たちのためにJeffHOPEという学生ボランティアが運営する病院が存在します。学生が主体となり患者の問診や身体診察を行い、医師に治療計画を提案します。医師は最終的な確認を行い不安な点があれば直接患者の診察も行います。治療薬は期限切れのものや寄付されたものを使うため基本的に患者はお金を払う必要がありません。待ち時間には福祉関係者が無保険状態から抜けられるように手続き上の援助等もしていました。このシステムは実地的な医療を早くから学べるという意味で学生にとっても利点があり、非常に素晴らしいものだと思うと同時に、無保険状態の人が見捨てられているのではないということで安心しました。 [群馬大学医学部 5年]
- 今回の研修を経て、日米の診療、医療制度、教育の差異を感じる事が出来ました。診療、医療保険制度に関してはそれぞれメリット、デメリットがあるように感じましたが、教育に関してはアメリカ式の学生に主体的に行う方針が素晴らしいと感じました。 [大分大学医学部 6年]

- 日本とアメリカで最も大きく違うと感じたのは、医師以外の医療従事者の数です。看護師、薬剤師、理学療法士、社会福祉士など様々な職種の人が病棟におり、毎朝医師チームと共にカンファレンスを行っていました。またそれらの職種間の分業もきっちり分けられていて、日本より医師の仕事が少ないと感じました。その分医師は一人ひとりの患者の診察を丁寧に行っていたし、毎日約2時間もチームカンファを行っていたことには驚きました。

[自治医科大学医学部 5年]



- カンファレンスでは学生が患者のプレゼンテーションを行い、それに対して先生が質問、ディスカッションする形式で学生が非常に患者情報、病態生理、治療方針について勉強している印象を受け、レベルの高さを実感しました。事実、学生の一人と話をすると朝の4:30に起きてカンファレンスのために準備しているということを聞き、自分を含め日本の学生を実習に対する意識の違いを強く感じています。アメリカでは学生にある程度の責任感を持たせ、能動的にチームの一員として実習に参加させることで現場教育を推進しているように思いました。

[大分大学医学部 6年]

- 実習とシャドーイングではただただアメリカの医学生に驚きました。日本のようにただシャドーイングをしているのではなく、患者を持ち、検査や治療を自分で考え、レジデントやアテンディングにプレゼンし、治療方針を決めていたからです。既に診断や治療方針の決まった患者さんを受け持ち、プレゼンをしているイメージが強い日本の実習とは全く違い、より研修医に近い働きでした。この経験によって私は、今後の日本の実習を受けるにあたってもっと積極的に患者さんへの診断や治療方針を自分で考えてみようと思いました。

[順天堂大学医学部 6年]

- 私は、正直、これほどまでに充実した実習を受けられるとは、当初、予想していませんでした。思いの外、濃縮した1週間で、終わった時には、ここで自分も実習を受け、卒業できたらと思って、本当に帰って来たくなかったほどでした。将来の方向性も定まり、また、新たに来年の目標も出来ました。自分が将来いい医師になるために必要なステップを、ここで着実に踏めたと思っています。

[京都府立医科大学 6年]

- なにより印象的だったのは米国の医学生、レジデントの賢さ、プレゼン能力の高さでした。医学部3年生が日本の研修医のように働いていますし、鑑別疾患の挙げ方もうまく、エビデンスに基づく医療が実践されていました。高い水準の医療に触れることができ大変刺激を受けましたし、自分の勉強不足を実感しました。私に英語力がもっと備わっていれば、もっと多くの情報を得ることができたと思うと悔しいです。これから、6年生になり、初期研修医として働くこととなりますが、またオブザーベーションとして米国の医療に触れて多くを学び、刺激を受けていきたいです。自分の将来像もより明確になりましたし、尊敬できる仲間にも恵まれてとても有意義な実習を送ることができました。

[神戸大学医学部 6年生]



賛助会員のご紹介

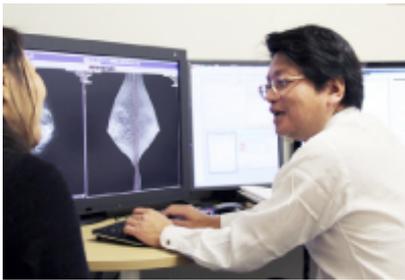
「財団野口」は、国際医学交流の推進を目的とした活動を永年に亘り続けてきました。日本が生んだ世界的医学者・野口英世博士の偉大な業績を称えその遺志を受け継ぐためには、国際医学交流活動は不可欠であると考えています。活動に当たっては外部の方々のご支援・ご協力が必要であり、その一つの方法として、“賛助会員制度”を設けています。『Noguchi Times Vol.2』では淀川食品株式会社様をご紹介します。

淀川食品株式会社様のご紹介

“空腹だけでなく心も満たす食事づくり”を常に目指し、「満足度の高い食事提供」を基本方針として給食サービスを提供する企業です。食文化の変化に伴い、多様化するニーズに素早く対応し、時代にマッチした調理方法、調理施設の改善、メニューの開発等を行っています。又、OA機器の導入による栄養管理や食品材料の発注、在庫管理、レシピ管理等を積極的に実施し、病院や事業所、学校、福祉施設その他の様々な分野に於いてフードサービスを展開しています。「ああ美味しかった」「ごちそうさま」といった声を頂く為に、日本全国多くの地域で毎日“幸せの味”を届けています。



野口記念インターナショナル 画像診断クリニックのご案内



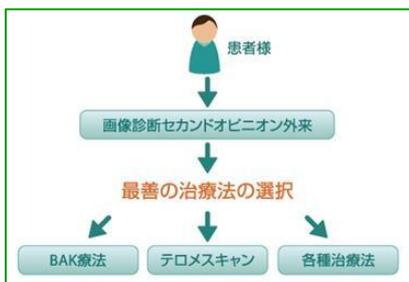
佐藤俊彦先生（米国財団法人野口医学研究所 常務理事、放射線専門医）が院長を務めるクリニックです。

画像診断セカンドオピニオン

患者様が自分の診療内容や治療方針について、主治医以外の医師に意見を求めることを「セカンドオピニオン」といいます。

納得できる治療法を選択することは、患者様の持つ基本的な権利です。だからこそ、自分の受けている治療が最善であるかを判断する為にも積極的に利用して頂きたいサービスです。

野口記念インターナショナル画像診断クリニックでは、セカンドオピニオン外来で、患者様の診療情報や画像診断検査のデータ、フィルム、読影結果を基に画像診断専門医によるコンサルテーションを行い、最善と考えられる治療を判断します。これにより主治医の意見も明確になり、治療や医師に対する不安の解消に役立つと同時に、治療の選択肢が広がることで患者様の希望にも繋がると考えています。



【所在地】

〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-22-13
虎ノ門秋山ビル2階

野口からのお知らせ

— 代理店並びに賛助会員募集のご案内 —

野口医学研究所では“代理店”並びに“賛助会員”を募集しています。

①代理店

「財団野口」の外郭団体である「社団野口」の事業パートナーとして、「財団野口」の運営及び活動に賛同の上、ご協力頂ければ幸いです。売れる商品とサービスがあなたを待っています。

【事業内容】

- 1) 野口ドクターホットライン®（国内海外24時間365日の電話医療相談）
 - 2) 健康相談サービス、健康食品110番（健康食品・化粧品等の電話相談代行）
 - 3) 品質推奨
 - 4) 野口ゴールド（金）コレクション
 - 5) 健康食品の販売（新健康活力製品シリーズ、アルツマイナー等）
 - 6) 化粧品の販売（キダシリーズ、森の洗い粉、海と卵のおくりものシリーズ）
- ※その他多くの医療、健康ビジネスを展開しています。



【代理店形態】

- 1) 代理店（登録料：30万円）
 - 2) 総代理店（登録料：100万円）
- ※総代理店は新規の代理店を傘下に置くことができます。
※各商品の販売手数料は、別途ご案内致します。



②賛助会員

賛助会員は団体・個人を問わず、全ての方を対象としています。「財団野口」の趣旨に賛同頂き、何卒厚いご支援ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

【法人会員】（五十音順）

アサヒ飲料株式会社様、アポロメディカルホールディングス株式会社様、株式会社ウェットラストジャパン様、株式会社UNHWAジャパン様、株式会社オハナ生活倶楽部様、株式会社介護NEXT様、株式会社共生医学研究所様、株式会社京都科学様、株式会社ゴールデンタイム様、株式会社サンリツ様、全国人材支援事業協同組合様、千代田国際語学院様、株式会社デイマート様、株式会社日建学院様、株式会社ニッコクトラスト様、株式会社日本ホップス様、株式会社NOAA様、訪問診療のナチュラルケアグループ様、淀川食品株式会社様

【個人会員】

安井一正様、甘利庸子様



NOGUCHI TIMES

Noguchi International Business Conference News Vol. 2

発行日 2014年5月27日
発行人 安東 恭助
発行所 米国財団法人野口医学研究所
編集 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-22-13
電話 03-3501-0130
米国財団法人野口医学研究所 参与会
